

### 1 自分を高める (2) やろつと決めたことは最後まで

P.22~29

#### 1-(2)

自分でやろつと決めたことは、粘り強くやり遂げる。

**1 この内容項目のページの特徴**  
自分でやろつと決めたことに対して積極的に取り組む、粘り強くやり遂げる態度を育てることは大切である。また、その意義や今よりもよくなりたいたいと願い、努力することについて考えることは、自分を高めることにつながる。

二十二・二十三ページは、今よりもよくなりたいたいという気持ちに共感したり、目標に向かって頑張り続けるためにはどのようなことが大切かを考えて書き込んだりする内容で構成されている。また、二十四ページには、目標に向かって積極的に取り組む気持ちを「一言がんばり日記」として書き込む欄もある。

全体を通して、やろつと決めたことは、最後までやり遂げようとする態度を育てることができるよう内容になっている。

#### 2 活用のポイント

中学年では、児童が自らの目標を設定し、諦めずに取り組むことの大切さに気付くとともに、目標達成に向けて具体的にどのようなことが必要かを考えることが大切である。日常生活や道徳の時間を通して自分を振り返らせることで、目標に向けてやり遂げようとする意欲へとつなげていきたい。

④ 目標に向かって頑張り続けるためにどのようなことが大切なのか話し合う。

#### 事例②

- ① 自分の夢や目標、頑張りたいことをグループ内で紹介し合う。
- ② 人物のコラム「夢は見るものではなく、かなえるもの」を読んで、どのようなことを思ったのか話し合う。
- ③ 自分の経験に基づき、夢や目標、頑張りたいことに向かって、どのような思いをもって、どのような思いをもつて、どのような取り組みでみようと思うのか、グループで話し合う。

#### 特別活動 (学級活動)

学級活動の内容  
「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」の指導に当たって、自分の生活を振り返



P.24~25

#### 3 活用場面例 道徳の時間

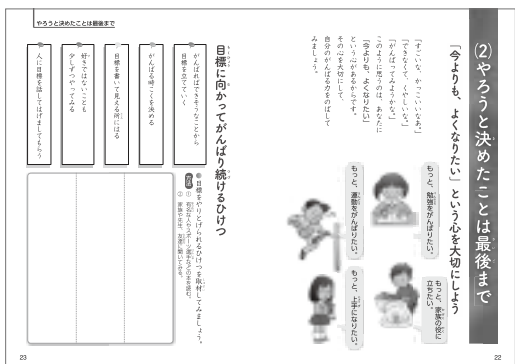
今よりもよくなりたいたいという気持ちは、誰もがもっているものである。道徳の時間においては、その思いがより深まるように、目標や自分でやろつと決めたことについて、積極的に取り組んでいこうとする意欲を高め、粘り強くやり遂げようとする態度を育成するようにしたい。

#### 事例①

① 二十二ページを読んで、自分は、どのようなことを頑張りたかと思っているのか話し合う。

② 読み物資料「きつとできる」を読んで話し合う。

③ 自分が決めた目標に向かって、今まで諦めずに取り組んだことがあるかを振り返る。



P.22~23

るとともに、自分が頑張ることを決め、実践することによって、目標をもってやり遂げようとする態度を養う際に、二十四ページを活用することができる。

#### 事例

- ① 今よりもよくなりたいたいという思いについて自分を振り返って話し合う。
- ② 話し合ったことを基に、自分の目標を設定し、二十四ページの書き込み欄に書き込む。
- ③ 目標や方法について発表し合い、目標を達成するため諦めずに努力していこうとする意欲を高め合って実践していくようにする。

#### 家庭との連携

二十三ページの「目標に向かってがんばり続けるひけつ」では、家庭と連携して、目標をやり遂げられる秘訣を考えることができる。  
家の人に取材することを通して、身近な人がどのように努力を続けているのかを知って、自分も頑張り続けようとする意欲を高める。

#### 日常生活

目標に向かって取り組もうとする意欲を持続するために、二十四ページの「一言がんばり日記」を活用することができる。  
児童が自分の頑張りを振り返ることで、主体的に目標に向かって努力していこうとする態度を育てていく。

1 資料の特性

シドニーオリンピックで日本人女性として初のマラソン金メダリストに輝いた高橋尚子選手の話である。高橋選手の小学校から高校、大学、そしてオリンピック出場に至るまでの気持ちとともに、目標に向かって最後までやり遂げようとする思いが描かれている。つらい練習をなぜ続けることができたのか、その思いの支えになっていたものは何かについて触れ、高橋選手が、自分で決めた目標に向かってどのような気持ちで取り組んでいったのかを考えていくことができる資料である。

2 指導上の留意点

オリンピック出場、そして優勝に至るまでの高橋選手の努力の姿には、大きな目標の達成に向かって、自分への挑戦を続け、小さな目標を一つ一つ達成していくことが大切だという信念がある。こうした高橋選手の思いを想像させた上で、自分自身を振り返り、目標に向かって、自分はどうのように頑張っているのかを考えさせ、自分がやろうと決めたことをやり遂げようとする態度を育てていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。

事例①

尚子の思いから、目標を実現することについて考える展開

【主な学習】

- ① 高橋選手について知っていることはあるか。
  - ・ マラソンの選手。
  - ・ オリンピックの金メダリスト。
- ② 自分の目標を決めようとした尚子の心の中を考えよう。
  - ・ どのような目標にしたらいいのだろう。
  - ・ 自分のやりたいことをしっかりと決めよう。
- ③ 大学生の尚子が、つらい練習でも続けることができたのは、どのような思いがあったからか。
  - ・ ここで諦めてはいけない。自分に負けたくない。
  - ・ 走ることがとても楽しかった。強くなりたい。
  - ・ もう高校生の頃のようにはなりたくない。
- ④ オリンピックで優勝のゴールテープを切ったとき、尚子はどのような気持ちだったか。
  - ・ 最後まで諦めずに練習してよかった。走ることが楽しくてたまらない。
  - ・ 諦めずに取り組んできたから、優勝することができた。

- ・ 今までやってきてよかった。とてもうれしい。
- ⑤ 自分でやろうと決めて、続けて取り組んでいることはあるか。

事例②

高橋選手の姿から、目標に向かって努力することについて考える展開

【主な学習】

- ① 自分には、どのような夢や目標があるか。
  - ・ サッカー選手になりたい。
  - ・ アナウンサーになりたい。
- ② 「人と戦うんじゃない、自分の記録と戦うんだ。」という高橋選手の言葉をどのように思うか。
  - ・ 比べるのは、人ではなく自分だということに気付いた。
  - ・ 昨日の自分を乗り越えていくことで、大きな目標が達成できると信じて、自分を見つめようとした。
- ③ 自分への挑戦を続け、自分の記録を伸ばしていった高橋選手をどのように思うか。
  - ・ 自分のことをしっかりと見つめ、自分らしく努力を重ねた人。
  - ・ 諦めずに一步一步努力を重ねていくことができたのは、走ることが本当に好きだという思いがあったからだと思う。

- ④ 今までに目標に向かって努力しようとしたが、くじけてしまったことはあるか。そのときは、どのような気持ちだったか。
  - ・ 連続逆上がりができるようにと頑張ったけれど、諦めてしまった。
  - ・ 本を月に十冊読もうと目標を立てたけれど、できなくて残念だった。
- ⑤ 自分の夢や目標を達成するために、どのようなことをどのように頑張りたいと思うか。
  - ・ 試合で負けても練習をやめず、毎日やるべきことをきちんとやっていきたい。
  - ・ 目標の達成に向けて、日々、やることを決めて、それを続けていくようにしたい。



1 自分を高める

(3) 正しいことは勇気をもって

P.30~37

1-(3)

1 この内容項目のページの特徴

「勇気」は、正しいことを思い切ったことであると同時に、正しくない判断したことを強い心でやめることでもある。

三十ページの「『みんなもやるから……。』と、あなたのはんだんをにぶらせてもよいのでしょうか。」という問い掛けや「選ぶのはあなた自身です。」という言葉は、正しいことや正しくないことについて、自分でしっかりと判断することの大切さに気付かせた上で、それ以降のページで、勇気について考えさせるような内容になっている。

勇気ある行動ができない理由や判断に悩んだときの対応などについても考えさせた上で、葛藤や迷いを乗り越えて、勇気ある行動を主体的に行っていくこうとする態度を育てることができる。

2 活用のポイント

中学年の時期は、正しいことや正しくないことについての判断力も高まってくるが、友達や他の人との関わりが増える時期でもあり、周りの人の意見に流されることもある。そうした心の迷いや葛藤があることを三十一ページを活用するなどして気付かせた上で、それらを乗

正しい判断したことは、勇気をもって行う。

り越えて、勇気をもって行動できるようにしていくことが大切であることに気付かせたい。

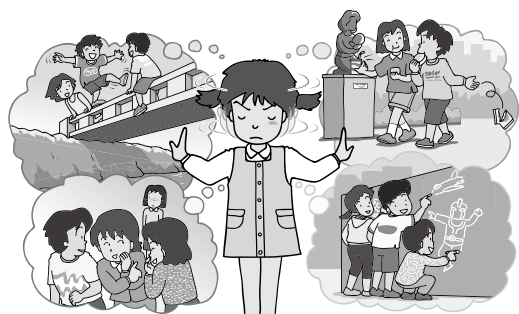
また、適切な判断や行動の選択が迫られる場面は、学校だけでなく日常の様々な場面にもあることから、どうすればよいか判断に迷うときには、家族などにも相談することができるよう、三十一ページを紹介するなどして家庭への協力を呼び掛けておくことも大切である。

3 活用場面例

■道徳の時間

三十二ページのイラストを活用するなどして、自分自身の経験と重ね合わせて、日常生活で勇気ある行動ができたこと、できなかったりしたこと、考えるようにする。

また、三十三ページを活用して、勇気ある行動ができたときの気持ちを振り返り、これからの勇気ある行動につなげていくようにする。

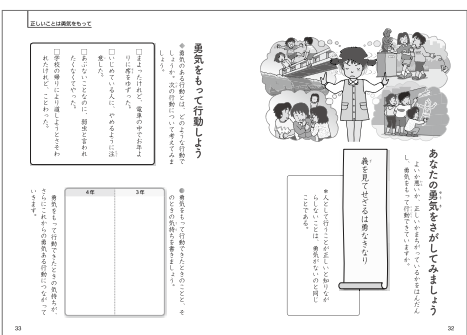


事例

- ① 三十ページを読んで、日常生活で勇気を出せたり、出せなかったりしたときの気持ちを思い出す。
- ② 三十一ページの勇気が出せなかったときの思いを読んで、自分にも同じようなことがなかったかを振り返る。
- ③ 三十三ページの勇気のある行動とは、どのような行動なのかについて考え、なぜそのように思うかを話し合う。
- ④ 三十三ページに、正しいと思うことを行ったり、正しくないことをやめるように言ったりして勇気ある行動ができた経験とそのときの気持ちを書く。
- ⑤ 「義を見てせざるは勇なきなり」の意味を読む。



P.30~31



P.32~33

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、正しいと判断したことを勇気をもって行うことなどを通して、望ましい人間関係を築く態度を養う際に三十一ページを活用することができる。

事例

- ① 誰かを仲間外れにしたり、意地悪なことを言ったりしたりしている友達がいたらどのように思うかについて話し合う。
- ② やめるように言うことが正しいと分かっているにもかかわらず実行できないのはなぜかについて、三十一ページを読んで話し合う。
- ③ 友達との望ましい人間関係を築いていくために大切なことを話し合う。
- ④ 友達との望ましい人間関係を築いていくために、自分がやってみようと思うことを書いて実際に行うようにする。

■家庭との連携

本内容項目についての学校での学習の状況を学級通信等で家庭に伝えた上で、三十一ページを活用して、大人でも時には、勇気を出せないと気が持たないことがあること、そのようなとき、どのようにすればよいか、どのように乗り越えればよいかなどを家庭で話し合うことを依頼する。また、判断に迷うときは、家族や周りの人に相談することも大切であることについて共通に認識してもらい、家庭の協力を得るようにする。

1 資料の特性

太郎は、背も高く力も人一倍強い。子供好きの太郎は、子供たちがどんなに太郎に対していたずらをして、子供のことだものこにこにこしている。そんな太郎は、子供たちが大切にしている白い鳥を、殿様が射止めようとしたとき、殿様の前に立ちはだかって、白い鳥を守った。太郎の行動を通して、本当の勇氣とはどのようなことなのかを考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

勇氣に関する児童の経験は様々であるが、よいことや悪いことの判断はできて、行動として踏み出せない場面は数多くあると考えられる。そうした場面を具体的に想定しながら、自分との関わりで、勇氣の意味を考えさせるようにしたい。

その際に、人は、誰もが心の弱さを抱えていることを認め合いながら、学級や学校などの身近な場面で、心の弱さを乗り越えて、勇氣をもって行動しようとする態度を称賛し励まし合うようにしたい。

また、こうした正しいことに向かおうとする勇氣を大切にす霧囲氣を学級内に醸成することで、いじめへの抑止力を高めていくようにしたい。

- ④ どの、勇氣を出してよかった。
- ④ 太郎のように、思い切って勇氣を出して行動したことはあるか。

事例②

勇氣ある行動に触れたときの思いについて考える展開

【主な学習】

- ① 太郎のことを「よわむし太郎」と呼んで、太郎に対していたずらをしていたとき、子供たちは、太郎のことをどのように思っていたのか。
  - ・ 言い返したり、やり返したりできない弱気な人。
  - ・ 自分たちを怒る勇氣もない弱虫。
- ② 「おまえも鳥といっしょに仕とめてしまおうぞ。」と殿様に怒鳴られても、殿様の前に立ちはだかっていた太郎を見て、子供たちは、どのように思っていたのか。
  - ・ 自分たちのために、あんなことをするなんてすごい勇氣だ。
  - ・ 今まで馬鹿にしたりいたずらしたりしてごめんない。なんて優しい勇氣のある人なんだ。
- ③ 子供たちは、どのような気持ちで太郎に走り寄ってきたのか。
  - ・ 本当にありがとう。今まで馬鹿にしてごめんないよ。
  - ・ もう今度から「よわむし太郎」なんて呼ばないよ。
  - ・ 太郎は、本当に勇氣のある人だ。
  - ・ 正しいと思うことを勇氣をもってできる太郎は、弱虫なんかではない。自分たちが間違っていたんだ。

3 展開例

【ねらい】

正しいと判断したことは、進んで行おうとする態度を育てる。

事例①

正しいと思ったことを勇氣を出して行うことについて考える展開

【主な学習】

- ① 太郎は、子供たちが白い鳥を大切にしているのを見て、どのように思っていたか。
  - ・ 子供たちが大切にしている鳥だから、自分も世話をしたい。
  - ・ 子供たちは、本当に白い鳥をかわいがっているんだな。
- ② 「おまえも鳥といっしょに仕とめてしまおうぞ。」と殿様に怒鳴られても、殿様の前に立ちはだかっていた太郎は、どのようなことを考えていたか。
  - ・ 本当は怖いけれど、子供たちが悲しむようなことはやめさせたい。
  - ・ 自分が白い鳥を守らないと、子供たちが悲しむ。
  - ・ 子供たちが大切にしている鳥を仕留めようとするなんて、殿様が間違っている。
- ③ 子供たちが太郎に走り寄ってきたとき、太郎はどのように思ったか。
  - ・ 子供たちが喜んでくれてうれしい。自分のしたことは、間違っていないんだ。
  - ・ こんなに子供たちが喜んでるんだ。怖かったけれど、

事例③

本当の勇氣について考える展開

【主な学習】

- ① 勇氣があると思うのは、どのような行動か。
  - ・ 怖いことでも、平気でできること。
  - ・ 間違っていることを、はっきりと間違っていると伝えること。
- ② 「おまえも鳥といっしょに仕とめてしまおうぞ。」と殿様に怒鳴られても、殿様の前に立ちはだかっていた太郎のことをどのように思うか。
  - ・ 怖いとか危ないとか考えなかったのだろうか。本当に仕留められるかもしれないに危ない。
  - ・ 怖いと思ったけれど、それを超えるぐらい子供たちのことを考えていたから勇氣が湧いてきたのではないか。
  - ・ 自分がしていることは、子供たちのためではないか。
- ③ 村から「よわむし太郎」という名前が消えたのは、どうしてか。
  - ・ 子供たちのために白い鳥を守ろうとした太郎は、優しく、本当に勇氣のある人だと分かったから。
  - ・ 人のために立ち向かう太郎は、勇氣ある人だと分かったから。
- ④ 本当の勇氣とは、どのようなことだと思うか。
  - ・ 威張り散らしたり、強さを見せつけたりすることではなく、正しいと思うことを実行すること。
  - ・ 本当の勇氣は、その行動が正しいことなのかをしっかりと考えた上で、正しいと思うことをすること。

1 自分を高める  
(4) 正直に明るい心で

P.38~45

1-(4)

1 この内容項目のページの特徴

児童は、日々の生活の様々な場面において、素直な気持ちで正直に振る舞うことの大切さを感じる機会も多く、本内容項目では、自分自身の経験を振り返って正直について考える内容などを掲載している。

三十九ページの「心のつな引き」のイラストは、自分の心の中の葛藤を視覚的に捉えることができるようになってきている。このイラストを見て、正直に言おうとする心と正直に言えない心の葛藤を自分自身の経験と重ね合わせて考えることができる。

また、四十ページの「自分の中の正直な心を見つめよう」では、普段自分が使う言葉を通して、具体的に正直な心を振り返ることができる。

さらに、四十一ページでは、国語科など他の教科と関連させて本に書かれた人物の行動から正直な行いについて考えることができるようになってきている。

2 活用のポイント

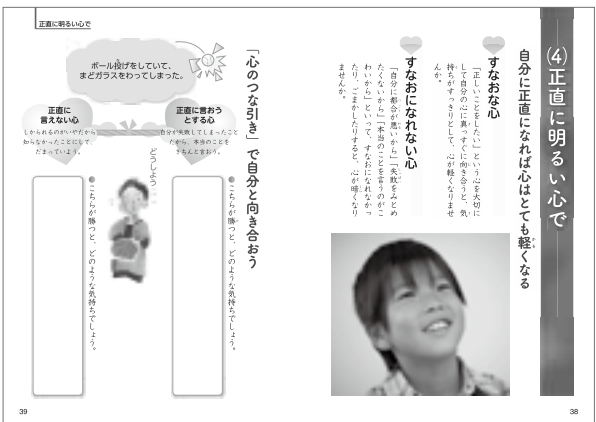
自分自身の経験と重ね合わせて、正直にできたときの心地よさや正直にできなかったときの心苦しきなどを自覚させ、過ちを自ら素直に改め、正直に明るい心で生活しようとする意欲を高めるようにしたい。

3 活用場面例  
道徳の時間

正直な心とは、どのような心なのか、また、正直にしようかどうしようかと葛藤する気持ちをどのようにして乗り越えるのかなどについて自分と向き合ってみて考えを深めさせる際に、三八から四五ページを活用できる。

事例

① 三十九ページのイラストを見ながら、正直に言おうかどうか迷った経験が自分にもないか振り返って考える。正直に言えたとき、また、言えなかったときのそれぞれの気持ちを書き込んで発表する。

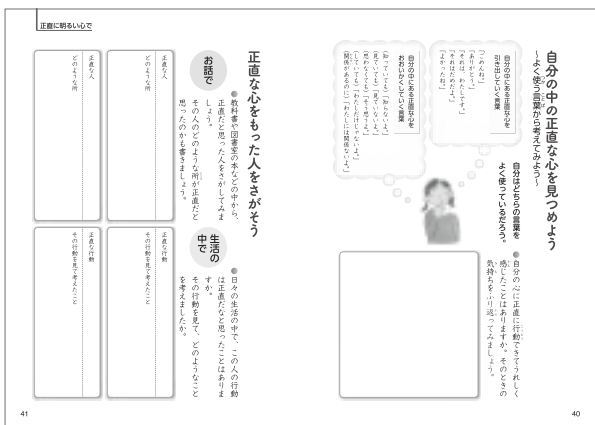


P.38~39

- ② 読み物資料「六セント半のおつり」を読んで話し合う。
- ③ これまでの自分を振り返って、四十ページに、正直に行動できた経験やそのときの気持ちを記入して話し合う。
- ④ 四十一ページを参考にして、これまでに読んだ本の中で、正直だと思った人物を紹介する。また、今後も教科書や図書室の本などの中から正直だと思った人物を探して、四十一ページに書き込むようにする。

特別活動  
(学級活動)

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、自分の生活を振り返って、相手に対してうそをついたりごまかしたりせずに、正直に明るい心で振る舞う態度を身に付けていこうとする際に、三十八・四十ページを活用することができる。



P.40~41

事例

- ① 三十八ページを読んで、友達とのトラブルなどの際に、素直な気持ちで相手に接することができたかどうか、そのときの気持ちを振り返って話し合う。
- ② 四十ページを読んで、言葉遣いの例を基に自分の生活を具体的に振り返る。
- ③ 正直な心を引き出す言葉や覆い隠してしまう言葉について、自分の経験を話し合う。
- ④ 友達や周りの人に正直に明るい心で接するためには、どのようなことが大切かについて話し合う。
- ⑤ 友達や周りの人と正直に明るい心で生活していくために自分が気を付けたいことや取り組んでみたいことを発表し合い、実際に取り組む。

家庭との連携

本内容項目についての学校での学習の状況を学級通信等で家庭に伝え、四十一ページの「正直な心をもった人をさがそう」について、家庭でも話し合うように依頼する。家の人から紹介された話をきっかけにして、正直な人物が出てくる本を自分でも読んでみようとする動機付けになる。また、日々の生活の中での正直な行動について家の人と話し合ったり、そのような行動を認め合ったりすることで、正直な行動を実践しようとする意欲を高めることができる。

1 資料の特性

第十六代アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンの人柄を題材にした資料である。店で働く若いエイブは、売上金の額が合わないことに気が付く。昼間、布地を購入した女性客に渡すべき釣り銭が少なかったことに気付いたエイブは、日本円にしてわずか六円ほどのお金を、寒い日に二時間かけて届けに行った。エイブの行動を通して、正直について考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

正直な行動は、相手からの感謝の有無によって意義が変わるものではない。自分が真つ直ぐにうそのない行動を貫くことで、自分自身の心が晴れやかになるということに気付かせ、正直な行動をしていこうとする態度を育てていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

正直に、明るい心で生活しようとする態度を育てる。

事例①

エイブの思いを通して、正直に行動することのよさについて考える展開

ならないな。

・間違っただけはすぐに謝らないと、自分も納得できないし、相手にも失礼だ。

③ 六セント半のお金を返して、「すみませんでした。」と謝って帰っていくエイブは、どのような気持ちだったか。

・金額の問題ではない。きちんと返すことができずすきりした。

・きちんと謝ることができて、心が晴れ晴れした。

④ 正直に行動してよかったことと、そのときの気持ちを話し合う。

事例②

エイブの行動を通して、正直について考える展開

【主な学習】

① 間違いに気付き、釣り銭を届けに行こうと考えたエイブをどのように思うか。

・なんて正直な人なのだろう。

・こんなに正直な人がいたら感動する。尊敬する。

② 自分だったら、このようなか。正直過ぎるのではないか。

・次の日に届けに行く。

・六セント半ぐらいならまあいいかと思っ返して行かない。

【主な学習】

① 夜遅くになって釣り銭の間違いに気付いたエイブは、お釣りを返しに行こうと決めるまでにどのようなことを考えたか。

・何で計算が合わないのかな。今頃分かって困ったな。

・あのお客さんは困っているだろうな。

② 少しかの間違いだから、これぐらいはいいだろう。いや、人のお金を余計にもらったはいけない。



③ 寒い晩に、二時間もかけて釣り銭を届けに行くとき、エイブは、どのようなことを考えていたのか。

・寒いし、遠いし、大変だな。少しのお釣りでもこんなに苦労しないといけないのか。でも、どんなに寒くても、遠くても、きちんと間違いは正さなくては

④ エイブは、どのような思いで寒い晩に、二時間もかけて釣り銭を届けに行ったのだろう。

・間違っただけは、すぐにでも相手に謝りたいと思った。自分の間違いをそのままにしていると気持ちがすきりしないと思っていた。

⑤ 相手が困っているのではないかと気になって仕方がないので、早く謝って返したかった。

⑥ 二時間もかけて釣り銭を届けたエイブに何と言ってあげたいか。

・本当に正直な人なのですね。あなたはそういう人だから、やがて大統領にまでなったのかもしれない。

⑦ 本当に大変でしたね。六セント半では、途中、届けるかどうか迷ったりしませんでしたか。きちんと届けたその姿に驚きました。

⑧ 正直に行動しようかどうか迷ったが、正直に行動してよかったと思っ出来事を話し合う。

